

2026 年 1 月 15 日

AGC と TRE、長野県諏訪市で窓ガラス水平リサイクルに関する 実証実験を実施

AGC 株式会社（代表取締役社長：平井 良典、以下「AGC」）と TRE ホールディングス株式会社（代表取締役社長：阿部 光男、以下「TRE」）は、TRE グループ傘下の株式会社信州タケエイ（以下「信州タケエイ」）の拠点がある長野県諏訪市において、廃棄されるアルミサッシ付き窓ガラス（以下、「廃棄窓ガラス」）のガラス水平リサイクルに関する実証実験を行いました。本実証実験は、解体現場で発生した廃棄窓ガラスを同等品質のガラスへ再生することで、従来そのほとんどが埋め立て処分されていた資源を循環し、産業廃棄物の削減に寄与することを目的としています。AGC と TRE は、廃棄窓ガラスの回収・分解からカレット（再生原料）への加工、板ガラス製造に至るまでの各工程を検証し、同スキームが適切に機能することを確認しました。なお、経済性の検証は継続して進めてまいります。

■ 実証実験の概要

諏訪及び周辺地域で信州タケエイが解体を行った現場で発生した廃棄窓ガラスを同社が回収・分解し、同じく TRE グループの TRE ガラス株式会社（以下「TRE ガラス」）がガラス部分をカレットに加工する工程を担当しました。その後、AGC がこのカレットを用いて新しい板ガラスを製造するプロセスの検証を行いました。



■ 各社の役割

信州タケエイ：廃棄窓ガラスの回収・分解作業、コスト分析と物流網の検討

TRE ガラス：ガラスカレットの製造および品質検査

AGC：横浜テクニカルセンター（YTC）でガラスカレットを原料とした板ガラス製造の検証

国内では、建築物から発生する廃棄窓ガラスが年間約 50 万トン以上とされ、現在はその多くが埋め立てや、元の製品よりも低品質な用途に再利用するカスケードリサイクルによって処理されています。本実証実験では、廃棄窓ガラスを元の用途と同等品質のガラスへと再生する水平リサイクルを実施し、産業廃棄物を削減するとともに、ガラス製造時のカレット使用比率を高めることで、CO₂ 排出量削減と自然資本であるガラス原料の使用量節減を目指しました。

従来、廃棄窓ガラスのサッシ部分は有価で引き取られる一方、ガラス自体を有価で回収する仕組みは十分に整備されておらず、経済性の確保が課題となっていました。本実証実験では、AGC と TRE が、廃棄窓ガラスの水平リサイクルにおける各工程のコストを算出し、サプライチェーン全体の経済性を検証しました。今後、両社はガラスリサイクルに関する経済性の検証を継続し、全国で窓ガラスの資源循環を推進する体制の構築を目指してまいります。

AGCグループの中期経営計画 [**AGC plus-2026**](#) では、当グループが提供する3つの社会的価値を示しています。このうち「Blue planet」では、資源の有効利用を重要機会ととらえ、ガラスの水平リサイクル拡大を通じて持続可能な地球環境の実現に貢献します。

TREホールディングスの[第2次中期経営計画（2024年度～2028年度）](#)では、長期ビジョンとして『[WX環境企業への挑戦](#)』を掲げ、従来は資源化が困難であった廃棄物や使用済み製品等につき、廃棄物処理における技術的・採算的な課題を克服し、資源やエネルギーへと転換する「WX（Waste Transformation）」を推進しています。この取り組みにより、動脈産業・静脈産業の枠を超えた“共創”を生み出し、高度循環型社会、脱炭素社会の実現とともにサーキュラーエコノミーへの貢献に挑戦しています。

〈ご参考〉

【AGCの窓ガラスリサイクルに関する取り組み】

- ・[全国初！横浜市とAGC、公共建築物の廃棄窓ガラスの水平リサイクル実証実験を開始](#) | ニュース | AGC
- ・[オリックスグループとAGC、国内初 窓ガラスの水平リサイクル事業のスキームを構築](#) | ニュース | AGC

【AGCのガラス資源循環に関する取り組み】

- ・[夏の観光シーズンに合わせてガラスの資源循環を学べるイベントを「SUWA ガラスの里」で開催](#) | ニュース | AGC
- ・[ガラスの資源循環を推進する地域協創プロジェクトを本格始動](#) | ニュース | AGC

〈報道関係者からの問い合わせ先〉

AGC 株式会社 広報・IR部 [お問い合わせフォーム](#)

TRE ホールディングス株式会社 IR 広報部 [お問い合わせフォーム](#)